

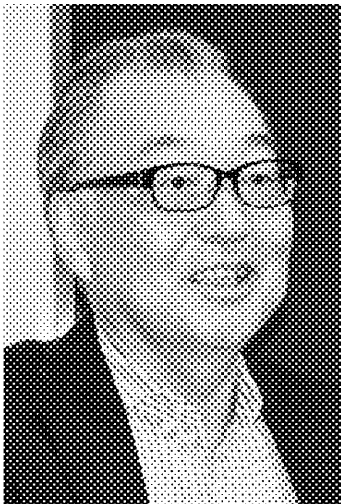
兼松アドバンスド・マテリアルズ（東京都中央区、浅羽鉄平社長）は、2015年に兼松から分社独立して1月で10年を迎えた。この10年間で売上高は約2倍になるなど規模が拡大。今後も再強化を図る非鉄金属事業を軸にM&A（合併・買収）も活用してより一層の成長につなげる。浅羽社長に戦略と展望を聞いた。

―3事業の現状をどう見えていますか。

「3事業の現状をどう見えていますか。益の柱になっている。―祖業である非鉄金属事業は堅調に推移している。非鉄金属事業の再強化を目的として23年に営業本部の下に非鉄金属部を新設し、25年4月には非鉄金属部を高機能材料課とサイキクル課の2課体制とした。加工も含めて付

非鉄を軸に成長持続

兼松アドバンスド・マテリアルズ社長 浅羽 鉄平氏



自律移動ロボット（A M R）を販売している。兼松寒川とのシナジーが功を奏し今のところ順調にきている。―1月に設立10周年を迎えました。

「この10年で売り上げは約3倍、経常利益は約3倍に拡大した。M&Aを行なったことは大きく、次の10年の足がかりを築くことができた。兼松寒川とはさらにシナジーを創出して売上高は今期の計画が300億円、5年後に500億円を目指す」

「この10年で売り上げは約3倍、経常利益は約3倍に拡大した。M&Aを行なったことは大きく、次の10年の足がかりを築くことができた。兼松寒川とはさらにシナジーを創出して売上高は今期の計画が300億円、5年後に500億円を目指す」

M&Aで再生材料確保

拠点の立地や事業内容を柔軟に変化させることが重要だ。トランプ関税の影響は今のところほとんどない。ただ、米国拠点では現在、貿易がメインだが今後は米国内での加工を手がけることも必要になってくるかもしれない」

「外部環境に応じて

若い力、進化に期待

記者の目

この4月から、設立10年目で初めて採用した新卒の社員が3人入社した。浅羽社長は「学生が働きたいと思えるような職場環境や研修制度などを整備してきた成果だ」と手応えを語る。今後も継続して採用を目指すという。若い力が会社としてのさらなる進化和成長の原動力となるはずだ。（松本理志）